小特集

ここまできた！アプリケーションによる個人学習

編集にあたって

上松恵理子（武蔵野学院大学）

近年，タブレットやスマートフォン上で動作するアプリケーションを用いた児童・生徒向けの個人学習が始まっている．この情報技術の活用による学習形態は，従来からあった個人指導や通信教育と比べて異なる点が多い．学習者にはいつでもどこでも個性に応じテーラーメイドな学習が提供され，保護者には子どもの活用データの結果がすぐに受けられるものとなっている．

そこで，本小特集ではこのような状況を踏まえ，学習データの活用やアダプティブラーニング（個別適応学習）に関する動向の解説，および実際の学習アプリケーションを提供している側，利用している側からの報告で構成した．情報技術の活用によって細かな付加価値が提供できるようになった学習の最新動向を見ていきたい．

まず，学習プロセスを最適化するアダプティブラーニングや学習アプリケーションからのデータ活用の最前線と現状を解説していただいた．ここでは，アプリケーションを用いて学習を行うとき，その過程で得られる種々のデータを活用することでこれまでより効果的な学習を実現した事例を紹介いただいた．

次にリクルート社が提供する個人向け学習アプリケーションであるスタディサプリの現状やその特徴，そこから得られた知見について，開発経緯やその利用状況，フィードバックについて可能な範囲で紹介いただいた．

さらに，ベンチャーの立場から，アプリケーションの活用教育におけるファンタムスティック社のベンチャーの小回りを活かした事例，および保護者としての知見をもとに大手にはない特徴を持つ工夫をこらした事例について解説していただいた．

最後に，アプリケーションなどを使った ICT 教育について，社会的側面や心理学的や発達科学的側面の研究を踏まえた上で，保護者としての視点からも子どもたちが学習のためにアプリケーションを使うことの良い点と心配な点，および社会全体から見た子どものアプリケーションを用いたオンライン教材利用の位置付けについてまとめていただいた．

ディジタル社会が急速に進んでいる中，海外では国の機関が教育アプリケーションを推奨している事例もあり，教育の現場に ICT 教育が積極的に取り入れられ授業が行われ始めている事例も少なくない．情報処理技術は教育の世界にとってすでに必須なものとなってきている状況をご理解いただけたら幸いである．

（2016 年 6 月 11 日）